

＜感染研バイオセーフティセミナー＞

ライフサイエンス分野の研究開発における
望ましいガバナンスのあり方を考える

日 時：平成 19 年 3 月 14 日（水）16:00～18:00

場 所：国立感染症研究所 共用第一会議室

演 者： マルコム・ダンドー(Malcom Dando)

英ブラッドフォード大学教授

ブライアン・ラパート(Brian Rappert)

英エクセター大学助教授

マルコム・ダンドー教授とブライアン・ラパート助教授は、生物兵器禁止条約専門家会合の英国政府代表団メンバーであり、英国ロイヤル・ソサエティー（学術会議）にて、ライフサイエンス分野における科学者の行動規範などのガバナンス・ガイドライン策定などを主導されてこられました。また、欧米諸国やロシアなどの主要諸国で科学者・研究者を対象に情報・意見交換会やセミナーを開催し、軍民両用の汎用研究・技術の漏洩対策の推進等を行ってこられました。

従来、実験室の安全性確保を目的とした「バイオセーフティ」分野においては、然るべき国際標準が設定され、施策も進められてまいりました。これに加えて、研究開発のガバナンスのあり方も包含した、より幅広い「バイオセキュリティ」についてもより一層の取り組みが必要とされております。今回、2007年3月12日～16日の間、来日する機会を得ましたので、感染研においてもバイオセキュリティ・セミナーを開催いたします。セミナーでは下記のテーマにつきまして議論を深めたいと考えております。

- ① ライフサイエンス分野におけるデュアルユースの危険性とは具体的にどのような事例が考えられうるのか？
- ② バイオセキュリティに関する基礎的情報の提供（諸外国や国際機関における施策の紹介）
- ③ 悪用の危険性が考えられうる、機微な研究開発成果をいかに適切なかたちで発表すべきか？
- ④ 研究開発や実験における、適切なガバナンス体制をどのように整備すべきか？
- ⑤ 科学技術の悪用防止における科学者等の責任のあり方とは？



連絡先：
国立感染症研究所
バイオセーフティ管理室
杉山 和良
03-5285-1111(内線 2420)